

2024年3月29日 全7頁

Indicators Update

2024年2月鉱工業生産

自動車メーカーの一部工場の稼働停止が続き生産指数は下振れ

経済調査部 研究員 石川 清香

[要約]

- 2024年2月の生産指数は前月比▲0.1%と2カ月連続で低下した。引き続き自動車メーカーの一部工場の稼働停止の影響が大きい。自動車工業では、特に普通乗用車や普通トラックの減産幅が大きかった。また、生産用機械工業では半導体製造装置が減産となった。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復局面入りなどが生産を下支えするだろう。他方、米欧での景気減速などが生産指数を押し下げ要因だ。なお、自動車メーカーの一部工場の稼働停止で、生産指数の水準は当面下押しされるものの、影響は徐々に剥落するとみられる。
- 2024年4月5日に公表予定の2月分の景気動向指数は先行CIが前月差+2.3ptの111.8、一致CIが同▲1.1ptの111.0と予想する。予測値に基づくと、2月の基調判断は機械的に「下方への局面変化」に下方修正される。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2023年						2024年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
鉱工業生産	▲1.4	▲0.4	+0.1	+1.2	▲0.6	+1.2	▲6.7	▲0.1		
コンセンサス								+1.3		
DIR予想								+1.7		
生産予測調査									+4.9	+3.3
補正值(最頻値)									+4.5	
出荷	▲1.3	▲0.2	+0.6	+0.3	▲0.8	+1.6	▲7.5	▲0.4		
在庫	+0.2	▲1.1	▲0.9	+0.0	+0.0	▲0.9	▲1.7	+0.6		
在庫率	+0.8	▲0.5	▲1.2	▲0.2	+1.5	▲2.3	+2.6	▲5.5		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】自動車メーカーの一部工場の稼働停止の影響が大きく、自動車工業が減産

2024年2月の生産指数は前月比▲0.1%と、コンセンサス（同+1.3%、Bloomberg調査）に反して2カ月連続で低下した。自動車メーカーの一部工場の稼働停止の影響が大きかった。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15業種中7業種が前月から低下した。自動車メーカーの一部工場の稼働停止の影響で、自動車工業（前月比▲7.9%）が減産となった。品目別では、ウエイトの高い普通乗用車（同▲7.7%）のほか、普通トラック（同▲17.8%）の減産幅が大きかった。豊田自動織機におけるディーゼルエンジンの認証取得問題などを受け、トヨタ自動車の一部工場の稼働を停止していたことが要因だ。他方で、軽乗用車（同+1.9%）は小幅に増加し、底打ちの兆しが見られる。軽乗用車を主力製品とするダイハツ工業は、認証不正問題を受け1月に工場の稼働を完全に停止していたが、2月より一部工場生産を再開した。

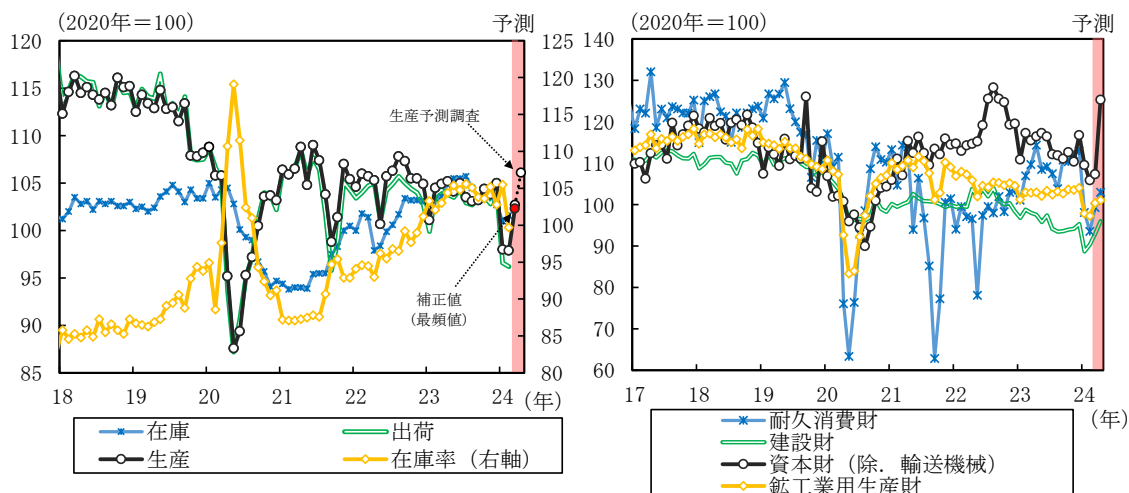
生産用機械工業（前月比▲3.2%）や輸送機械工業（除. 自動車工業）（同▲8.3%）も減産となった。前者では、このところ増加基調にあった半導体製造装置（同▲18.9%）の減産幅が大きかった。他方で、化学工業（除. 無機・有機化学工業・医薬品）（同+3.1%）やパルプ・紙・紙加工品工業（同+4.3%）は全体の下支え要因となった。

財別では、資本財（除. 輸送機械）（前月比▲3.4%）や耐久消費財（同▲4.6%）、生産財（同▲0.6%）が押し下げ要因となった一方で、非耐久消費財（同+1.1%）や建設財（同+1.8%）は上昇した。

【出荷・在庫】出荷指数は全業種・すべての財で低下

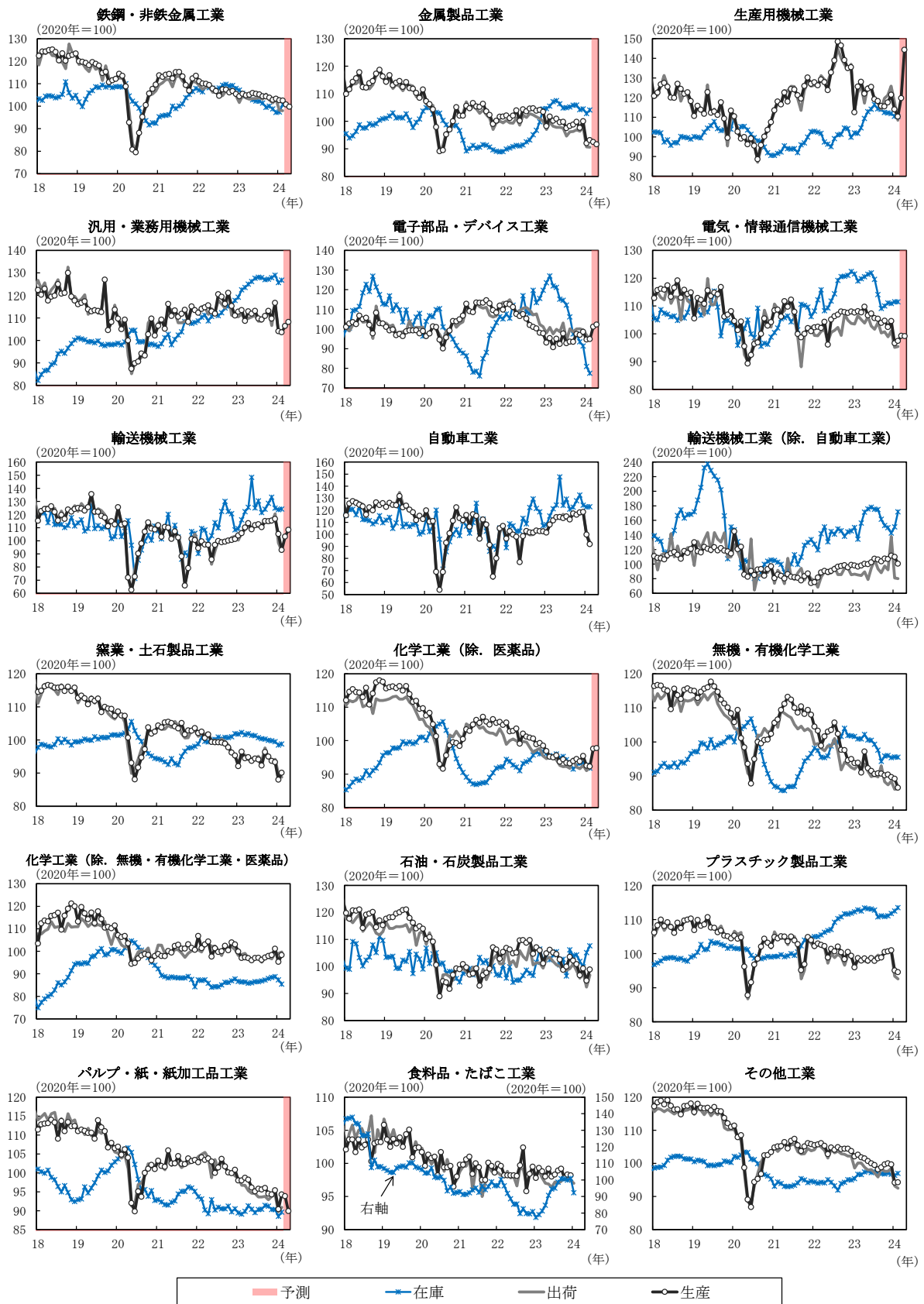
2月の出荷指数は前月比▲0.4%と2カ月連続で低下した。業種別では、自動車工業など15業種中9業種が低下した。財別では、生産財、資本財（除. 輸送機械）、耐久消費財、非耐久消費財が低下した一方で、建設財は上昇した。在庫指数は同+0.6%、在庫率指数は同▲5.5%となった。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業 (除. 医薬品) の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】半導体関連財の需要回復が下支え、自動車工場稼働停止の影響は徐々に剥落

先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。当面は、シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復局面入りで、半導体関連財の生産が増加するとみている。他方、米欧での景気減速や、自動車メーカーの一部工場稼働停止は生産指数の押し下げ要因だ。

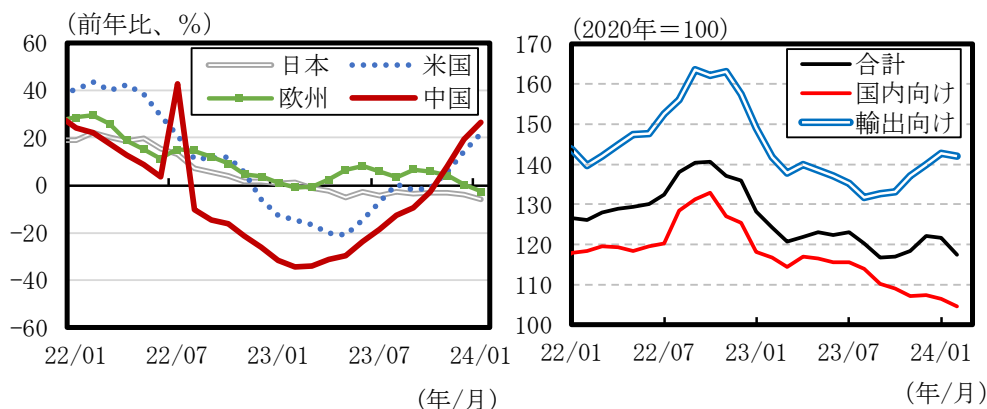
シリコンサイクルは改善傾向にあり、引き続き半導体製造装置をはじめとした半導体関連財の需要回復が見込まれる。WSTS（世界半導体市場統計）によれば、1月の地域別の世界半導体販売額（3カ月移動平均）では特に中国で前年比+26.6%の大幅増となっている（**図表4左**）。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によれば、半導体製造装置を含む輸出向けの生産用機械工業はこのところ増加基調にあり（**図表4右**）、中国を中心に日本の半導体製造装置への需要が旺盛とみられる。ただし一部報道によれば、米国は日本やオランダに対し、半導体製造装置の販売制限の拡大などを含む対中輸出管理規制の強化を求めたという。日本がこれに応じれば、中国での販売額が落ち込み、日本の生産指数を下押しするリスクがある。

またダイハツ工業の工場稼働停止の影響で、生産指数の水準は当面下押しされるだろう。もっとも、2月には一部車種の生産が再開されているほか、3月から4月にかけてさらに生産再開が進むことが発表されており、生産指数への影響は徐々に縮小するとみられる。また、豊田自動織機におけるディーゼルエンジンの認証取得問題の影響についても、徐々に緩和するだろう。トヨタ自動車は、1月末より稼働停止していた国内4工場について、3月4日から生産を全面再開している。

製造工業生産予測調査によると、2024年3月の生産は前月比+4.9%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同+4.5%）と見込まれている。業種別では11業種中7業種が上昇する見込みだ。輸送機械工業（同+10.9%）で前述した工場の稼働再開による増産が見込まれるほか、生産用機械工業（同+8.5%）なども全体を押し上げるとみられる。

さらに、4月の生産は前月比+3.3%となる見込みだ。業種別では、11業種中7業種が上昇するとみられている。生産用機械工業（同+20.6%）で半導体製造装置などの受注増が見込まれているほか、輸送用機械工業（同+5.0%）などでも増産が計画されている。

図表4：地域別の半導体販売額（左）と生産用機械工業の出荷内訳（右）



(注) 右図は3カ月後方移動平均。

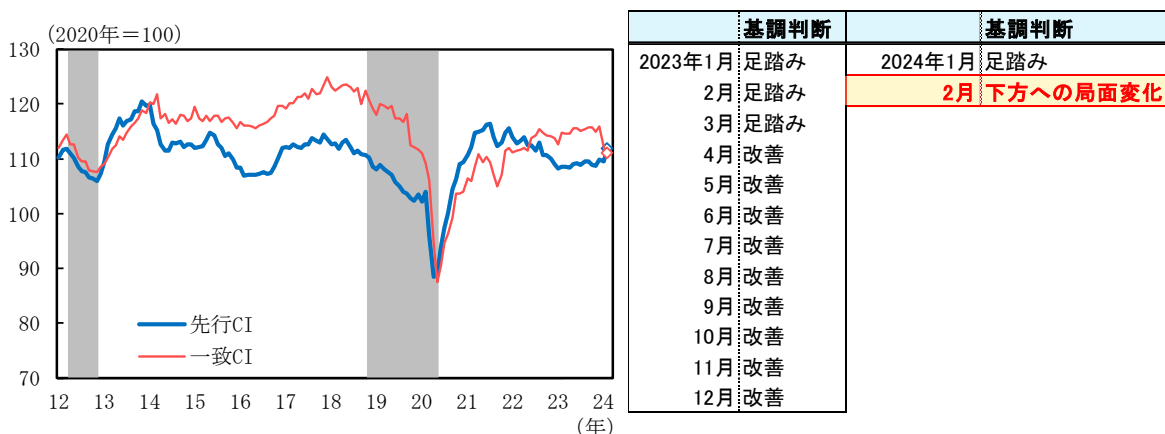
(出所) 経済産業省、WSTS、SIAより大和総研作成

【2月景気動向指数】先行CIは上昇、一致CIは低下の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024年4月5日に公表予定の2月分の景気動向指数は先行CIが前月差+2.3ptの111.8、一致CIが同▲1.1ptの111.0と予想する（図表5）。先行CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数や消費者態度指数、最終需要財在庫率指数などが改善した。また一致CIでは構成指標のうち、輸出数量指数や耐久消費財出荷指数、投資財出荷指数（除輸送機械）などが悪化した。この予測値に基づくと、2月の基調判断は機械的に「下方への局面変化」に下方修正される。

先行きの経済活動は緩やかな回復基調を辿るとみている。2024年春闘では、2年連続で前年を大幅に上回る賃上げが実施される可能性が高いことから、サービス消費を中心に個人消費の回復を後押しするだろう¹。なお、春闘の結果を受け、日本銀行（日銀）は3月金融政策決定会合において、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の枠組みおよびマイナス金利政策の撤廃などを決定した。日銀は新たな金融政策の枠組みのもと、①2%の物価安定目標の達成、②出口戦略の円滑な遂行、の両立を図る必要があり、今後の政策運営が注目される。

図表5：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



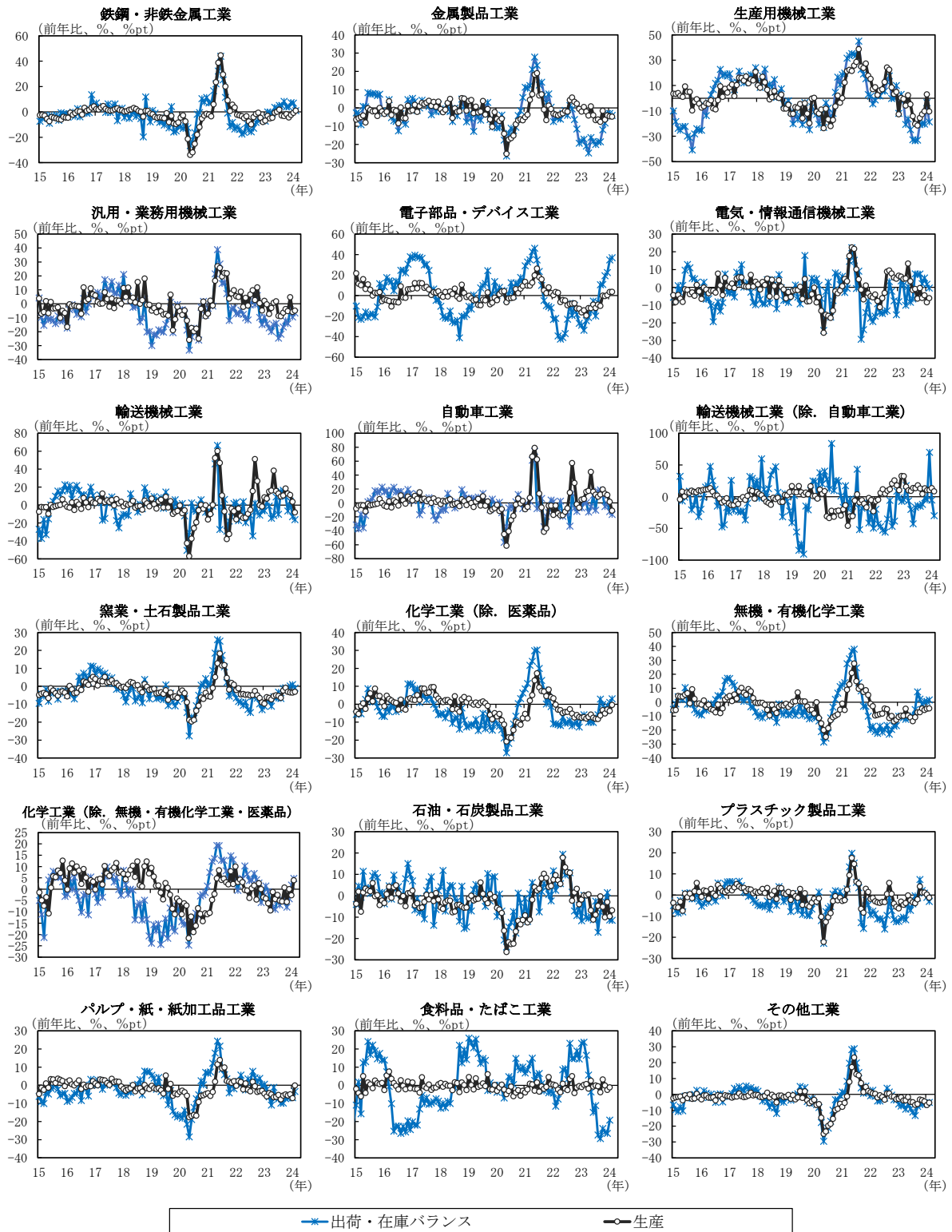
（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドローは景気後退期。

右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2024年2月は大和総研予想。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

¹ 詳細は神田慶司、久後翔太郎、田村統久「[日本経済見通し：2024年3月](#)」（大和総研レポート、2024年3月22日）を参照。

業種別 出荷・在庫バランスと生産



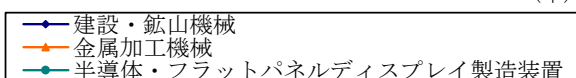
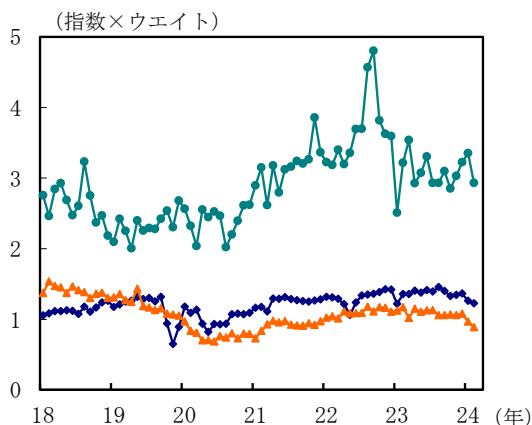
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

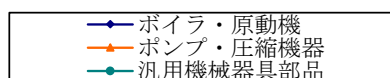
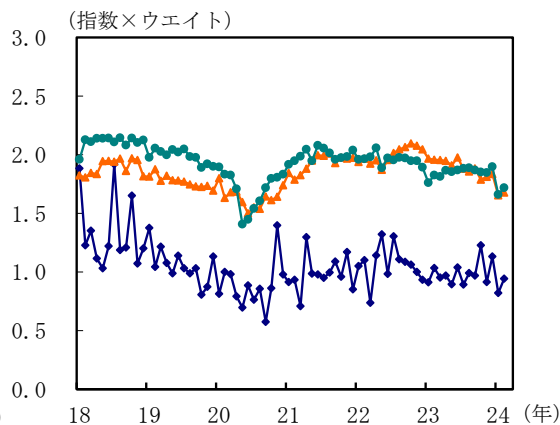
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

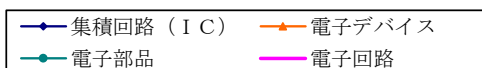
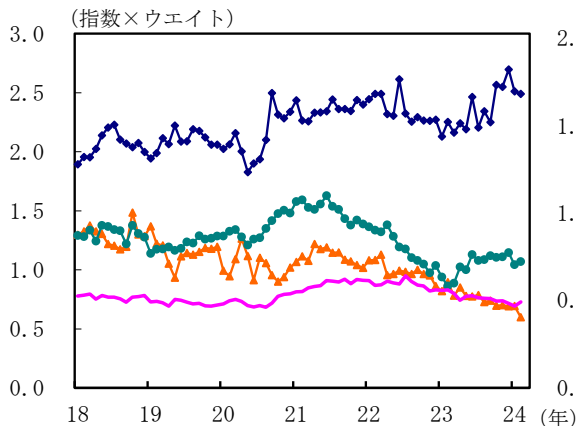
生産用機械



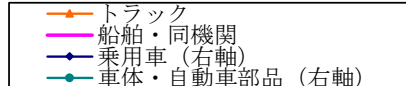
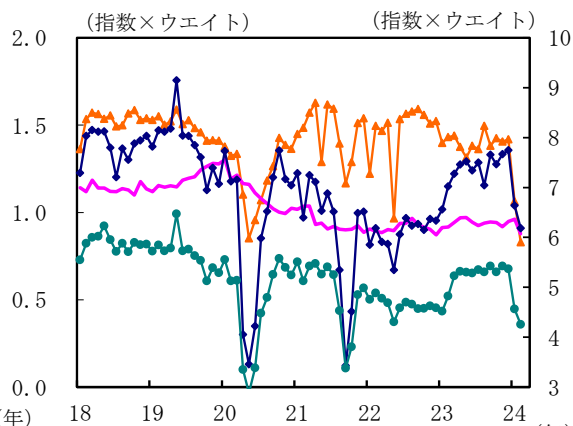
汎用・業務用機械



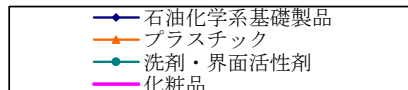
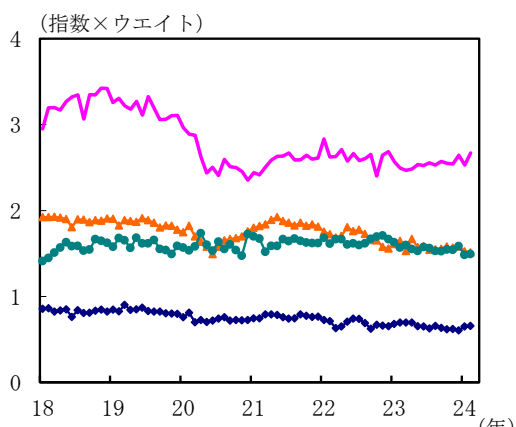
電子部品・デバイス



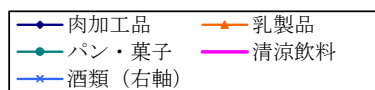
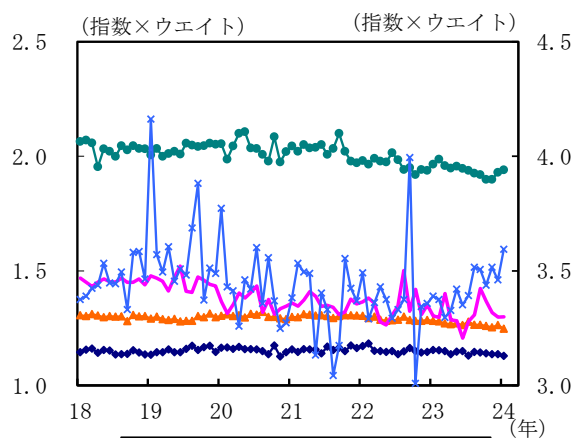
輸送機械



化学



食品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成